

令和7年度
滋賀県プラスチックごみ・食品ロス削減
優良取組表彰



2025
受賞者
紹介

日世株式会社びわ湖工場

(滋賀県犬上郡多賀町大字四手字諏訪510-7)



食品ロス品を使用した ソフトクリーム巻き巻き体験と環境学習 ～ソフトクリームは子どもたちの笑顔のみなもと～

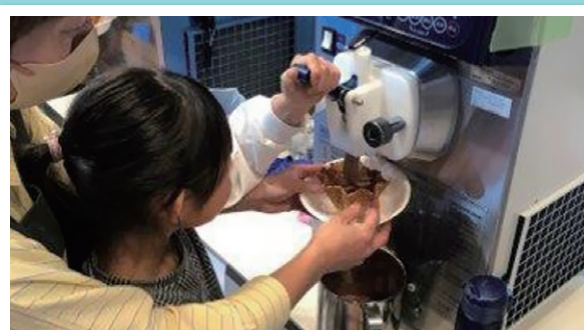


日世株式会社びわ湖工場の取組

日世株式会社びわ湖工場は、社会福祉協議会、行政、そして地域との連携のもと、子どもたちへの支援活動を積極的に展開しています。その中心となるのが、ソフトクリーム工場で発生する食品ロス削減と環境問題への意識啓発をテーマとした「ソフトクリーム巻き巻き」体験です。この体験では、主に食品ロスとなる原料を活用し、楽しみながら食品ロス削減の重要性を学ぶ機会を提供しています。

この取組は2021年から継続しており、これまでに地域の子ども食堂や学童教室、交流会館など、30ヶ所以上の施設で実施してきました。さらに、地域と企業が共同で取り組む事例として情報交流会などを通じて積極的にこの取組を発信しています。これにより、滋賀県の地域特性を活かした成功モデルとして、同様の課題を抱える他の地域への展開も推進しています。

また、この取組は、食品ロスの削減や廃棄物の資源化を子どもたちに学習してもらう機会であると同時に、困難を抱える子どもたちの居場所を創出する機能としても地域に貢献できる取組だと考えています。



令和7年度 滋賀県プラスチックごみ・食品ロス削減 優良取組表彰



2025
受賞者
紹介

日世株式会社びわ湖工場



受賞者コメント

このたびは、滋賀県プラスチックごみ・食品ロス削減優良取組表彰を賜り、誠にありがとうございます。弊社は、食品ロスとなり得るソフトクリーム原料を活用し、子ども食堂や学童教室等で「巻き巻き体験」と環境学習を実施してまいりました。何より、参加してくれた子どもたちの笑顔と「もったいない」を行動に変える力が、この取組を前に進めてくれました。子どもたち一人ひとりに心より感謝申し上げます。ご支援くださった関係者の皆様にも御礼申し上げます。今後も地域とともに、環境負荷低減と居場所づくりに取り組んでまいります。



令和7年度
滋賀県プラスチックごみ・食品ロス削減
優良取組表彰



2025
受賞者
紹介

しがローカルSDGs研究会 プラごみ研究会Rキッズ

(滋賀県大津市浜大津4丁目1-1)

小中学生によるプラスチックごみ削減に 向けた調査および啓発活動



しがローカルSDGs研究会 プラごみ研究会Rキッズの取組

プラごみ研究会「Rキッズ」は、プラスチックごみ削減に向けた調査・啓発活動を目的として、小学生を対象に2022年から活動を開始しました。この研究会では、子どもたちが自ら問い、体験を通じて学ぶことを重視し、店舗でのアンケート調査やチラシ配布による啓発活動を実施しています。2023年度には琵琶湖岸におけるマイクロプラスチック調査を、2025年度には「マイ容器」に対応するお店の調査を行い、その結果を広く公表することで、県民の行動変容を促しています。

この活動は、行政、地域のお店、県内で学ぶ大学生など、多様な主体との連携によって進めています。また、2025年度で活動を始めて4年目となり、初年度からの参加者が中学生となりましたが、「Rキッズリーダー」として継続的に活動に参加しています。毎年、チューターとして大学生も参加し、子どもたちの学習を支援しています。

様々なセミナーやイベント等にパネラーやブース展示として参加しており、2025年8月には「みんなのBIWAKO会議/COP4」にてRキッズが活動発表を行い、「マイ容器持参」を呼びかけました。Rキッズの取組をさらに広げ、持続可能な社会へ貢献していきたいと考えています。



令和7年度
滋賀県プラスチックごみ・食品ロス削減
優良取組表彰



2025
受賞者
紹介

しがローカルSDGs研究会 プラごみ研究会Rキッズ



受賞者コメント

この度は表彰いただき、誠にありがとうございました。また、子どもたちを見守る保護者の皆様、歴代チューターの高校生・大学生(当時)の皆様にも、日頃のご支援・ご協力に深く感謝申し上げます。さて、「Rキッズ」は毎年、参加者を一般公募する連続講座の形で開催していますが、この活動に興味を示されたお子さんは継続参加されるようになってきました。卒業生がリーダーとなり、継続参加者が新規参加者を助けるような場面も見えてきています。それらは私たちが目指してきたものでもあり、その結果がこの度の表彰にもつながったのだと考えております。今回の表彰を通じて、さらにメンバーのやる気が育ち、新たな参加者への良い刺激も期待できるものと考えております。私たちがしがローカルSDGs研究会としても、この栄誉を励みに、より一層の精進を重ねてまいりますので、関係者の皆様には引き続きのご指導、ご鞭撻をよろしくお願いいたします。



令和7年度
滋賀県プラスチックごみ・食品ロス削減
優良取組表彰



2025
受賞者
紹介

大塚産業マテリアル株式会社

(滋賀県長浜市八幡中山町1番地)

産廃処理していた製品端材の リサイクル転用



居住空間を創造する

大塚産業マテリアル株式会社

OTSUKA SANGYO MATERIAL Inc.

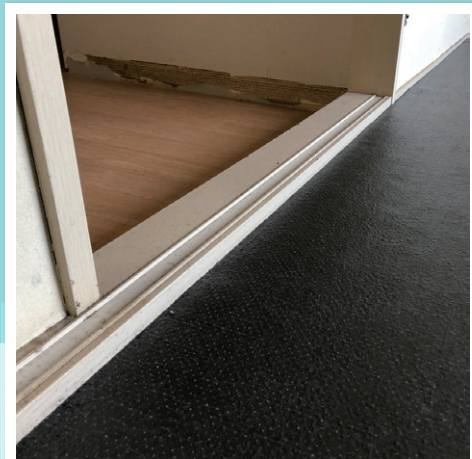
大塚産業マテリアル株式会社の取組

大塚産業マテリアル株式会社は、製品端材として廃棄されていた廃プラスチックをリサイクル転用することで、プラスチックごみ問題の解決と環境負荷の低減に貢献しています。

当社では、自動車部品の製造過程で発生するウレタン端材を廃棄せず、新たな製品へと生まれ変わらせる仕組みを構築しました。廃棄物の有効活用により、環境に配慮した製品開発を実現しています。

本取組の最大の特徴は、大阪の建材メーカーと連携し、自動車産業の廃棄物を建設業の資材としてリサイクルする異業種間連携を実現した点にあります。2023年11月の開始から継続しており、これまで産業廃棄物として処理されていた端材を原料として再利用することで、廃棄物量の大幅な削減に成功しました。

リサイクルされたウレタンは、ホテルやマンションの床下地、バリアフリー化に伴う段差解消材として活用されています。今後は高齢化に伴う住宅リフォームや、災害時の仮設住宅需要への対応も見込んでいます。当社はこれからも、本取組を通じて産業廃棄物課題の解決と、持続可能な社会の構築に積極的に貢献してまいります。



令和7年度
滋賀県プラスチックごみ・食品ロス削減
優良取組表彰



2025
受賞者
紹介

大塚産業マテリアル株式会社



受賞者コメント

この度、令和7年度の「滋賀県プラスチックごみ・食品ロス削減優良取組表彰」にて名誉ある賞をいただき、大変光栄に思います。今まで産業廃棄物として扱っていたゴミを再利用できないかと、日々試行錯誤を重ねてまいりました。今回のこの取り組みを通じて、固定観念を見直すきっかけとなりました。この世の中にはゴミは存在せず、すべてが資源に変わる可能性があると感じられました。今後も異業種企業と連携し、循環型社会の実現に努め、環境保全と資源の有効利用を使命とし、社会への貢献に努力を続けてまいります。



令和7年度
滋賀県プラスチックごみ・食品ロス削減
優良取組表彰



2025
受賞者
紹介

株式会社セブン-イレブン・ジャパン

(東京都千代田区二番町8番地8)

滋賀県内での ペットボトル回収機設置の取組



株式会社セブン-イレブン・ジャパンの取組

株式会社セブン-イレブン・ジャパンは、滋賀県内でペットボトル回収機を導入し、地域と連携したリサイクル推進に貢献しています。2021年7月1日より県内に初めてペットボトル回収機を設置し、現在では県内65店舗で回収に取り組んでいます。

この活動は、「ボトルtoボトル」という、回収されたペットボトルが新しいペットボトルの原料に100%活用される仕組みを特徴としています。また、びわ湖マラソンへのブース出展や、まちのコイン「ビワコ」との連携にも取り組みながら認知を拡大してきました。そのほか、びわ湖の日には回収機体験会も実施するなど地域住民にリサイクルの重要性を楽しく伝えています。

この取組では、3年間で累計600万本ものペットボトル回収を達成しました。セブン-イレブン・ジャパンは、今後も継続してペットボトル回収の取組を進め、地域社会と連携しながら、資源循環の推進に貢献していきます。



令和7年度
滋賀県プラスチックごみ・食品ロス削減
優良取組表彰



2025
受賞者
紹介

株式会社セブン-イレブン・ジャパン



受賞者コメント

店頭でのペットボトル回収は、県民の皆さんに行動いただく事で成り立つ取組みですので、これまでも滋賀県様と連携して各種イベント等で取り組みを発信してまいりました。びわ湖のゴミが少しでも減るように、また、CO₂の削減や、資源の有効活用の取組みの一つとして、今後もペットボトルの回収事業を継続いたします。日々の中で、無理なく気軽にリサイクル活動を実施出来る場所として店頭でのペットボトル回収機を知っていただきたいですし、今回表彰していただいた事で、更に取組みの認知が向上し、多くの方の参加に繋がればと思っております。



令和7年度 滋賀県プラスチックごみ・食品ロス削減 優良取組表彰



2025
受賞者
紹介

井上 優依

めぐるハーブプロジェクト

井上優依さんの取組

「めぐるハーブプロジェクト」では、守山市にある井入農園さんにご協力をいただき、大きくなりすぎたなどの理由で商品にならず廃棄されるはずだった日本のハーブを利活用し、オリジナルブレンドの「ニホンノメグリ」というハーブティーを開発・販売する取組を実施しています。このプロジェクトでは、単に商品を作るだけでなく、廃棄されるものに新たな価値を与えることで、食品ロス削減と地域農業の活性化を目指して活動しています。

このハーブティーの開発においては、ハーブそれぞれの香りの特徴を活かしつつ、消費者が飲みやすいよう独自の配合を試行錯誤して決定しました。地元守山市に位置する井入農園さんとの連携は、地元で育った安心な素材を使用し、地域と消費者を繋ぐ役割も果たしています。また、ネーミングの「めぐる」には、環境と地域とのつながりを意識した想いが込められています。

このプロジェクトは10袋限定の小規模生産からのスタートですが、購入者アンケートでは環境への問いかけをする仕組みを導入し、食品ロスへの関心を高めるきっかけを作っています。また、高校生発の取組であることは、他の学生の共感や取組の参考にもなると考えています。

